

アドリブ力をつけるために

先週、三年D組の通信を読みました。KMさんが昼の放送に取り組んでいたことを大きく取り上げたものでした。彼女は現在の状況（感染症予防のために全校生徒が静かに給食を摂っていること。組織づくりの真っ最中で、今年度の担当が決まっていないことなど。）を考えて、自ら放送を流そうと判断しました。主体性を発揮したすばらしい姿です。



彼女には、もう一つすばらしさがあります。先週の昼の放送の中で、彼女は次のように言いました。

「この放送は、私がアドリブでやっているのです……」

彼女はさらっと言いましたが、私はこの言葉にすぐさま反応しました。中学生でアドリブで語ることができる人は決して多くありません。何を語るかを事前に計画し、話すことを全て文字に起こさないと安心して語れないという人もいるかもしれません。時と場合によりますが、私もそういうときがありますからね。

テンポよくかけ合いが進む漫才だって、ネタ合わせにかなり時間を費やします。すらすらとニュースを語っているアナウンサーだって、手元に原稿がありますし、テレビカメラの横に、話す内容が文字で流れている場合がありますからね。そう考えると、アドリブで語ることができるというのはすばらしいことだと言えるでしょう。

ただ、それが今できる萌さんは、言葉を発することができるようになった幼い頃からそれができたわけではなく、いはずです。これまでの生活の中で、少しずつその力を身につけ、今に至ったのでしょうね。

朝、彼女とあいさつを交わすと、プラスアルファの会話が自然と生まれます。「今朝は暑いねえ」と声をかけると、「そうですね。本当に暑いですね。」と笑顔と共に関心した言葉が返ってきます。アドリブ力というのは、そういうささいな会話の積み重ねで身につくような気がします。さあ、今日からあなたも、あいさつの次に何か言葉を付け足して、学校関係者や地域の方とコミュニケーションをとってはどうかな。

(六月十五日 記)